

正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2023年8月4日）

■第1版 第3刷（2021年11月15日発行）の修正・更新箇所

※第1刷からの修正箇所は https://www.yodosha.co.jp/correction/9784758118750_corrections.pdf をご参照ください

| 頁 | 場所 | 修正前 | 修正後 | 補足 | 掲載 |
|--------------|---------------------------|--|---|-------------------------------|----------|
| 1章-2 中国医学の歴史 | | | | | |
| 14 | Chart3 中国の三大古典 表7行目 | 『傷寒論・金匱要略』 | 『傷寒論』『金匱要略』 | | 23/08/04 |
| 14 | Chart3 『傷寒論』張仲景 肖像画キャプション | 温知堂矢数医院所蔵 | 温知堂矢数医院所蔵(本書発行時) * 2021年より武田科学振興財団 杏雨書屋所蔵 | | 23/08/04 |
| 15 | 「1.中国の三大古典」上から2行目 | 、『傷寒論・金匱要略』)が成立しました。 | 、『傷寒論』・『金匱要略』)が成立しました。 | | 23/08/04 |
| 15 | 下から7行目 | 3)『傷寒論・金匱要略』 | 3)『傷寒論』『金匱要略』 | | 23/08/04 |
| 16 | Chart5 金元医学 1行目 | ●『黄帝内経』などを中心とする理論医学と『傷寒論・金匱要略』『千金方』などで | ●『黄帝内経』などを中心とする理論医学と『傷寒論』『金匱要略』『千金方』などで | | 23/08/04 |
| 17 | 「3.金元医学」上から2行目 | 『傷寒論・金匱要略』や『千金方』などで | 『傷寒論』『金匱要略』や『千金方』などで | | 23/08/04 |
| 18 | Chart6 6行目 | 葉 天士 <u>よう</u> てんし | 葉 天士 <u>しょう</u> てんし | ルビを修正 該当の索引用語も訂正 | 23/08/04 |
| 18 | Advanced 表の2行目 | 1.『傷寒論・金匱要略』 | 1.『傷寒論』『金匱要略』 | | 23/08/04 |
| 18 | Advanced 表の下から1行目および脚注 | ●収掲載漢方薬: <u>六君子湯*</u> 、疎経活血湯、温清飲、清肺湯など * <u>六君子湯の大元の出典は、『永類鈴方』、または「医学正伝」「世医得効方」とするものもある</u> | ●収掲載漢方薬: 疎経活血湯、温清飲、清肺湯など | 「六君子湯」とその脚注を削除 | 23/08/04 |
| 19 | 下から4行目 | 清代初期に『温熱論』を著した葉 天士 (<u>よう</u> てんし) ^{※11} は、 | 清代初期に『温熱論』を著した葉 天士 (<u>しょう</u> てんし)は、 | ルビを修正 ※11を削除 該当の索引用語も訂正 | 23/08/04 |
| 19 | 注釈 | ※11 <u>葉天士の読みは「しょうてんし」が正しいが、ここでは慣例に従い「ようてんし」とした。</u> | 削除 | | 23/08/04 |
| 1章-3 漢方医学の発展 | | | | | |
| 20 | Chart7 鎌倉時代の説明 | 鎌倉時代になると医療の担い手が宮廷医から僧侶に替わり、医療の対象が貴族から <u>一般民衆</u> に拡大 | 鎌倉時代になると医療の担い手が宮廷医から僧侶に替わり、医療の対象が貴族から <u>民衆</u> に拡大 | | 23/08/04 |
| 20 | Chart7 1192年鎌倉時代の説明 | 蘭方の <u>伝来</u> | 蘭方の <u>普及</u> | | 23/08/04 |
| 23 | Chart8 | ▶西洋化・富国強兵をめざした明治新政府はドイツ医学を範として医事制度を確立し、 <u>漢方医学廃絶の方針</u> | ▶西洋化・富国強兵をめざした明治新政府はドイツ医学を範として医事制度を確立し、 <u>漢方医学は廃絶させる方針をとった</u> | | 23/08/04 |
| 23 | Chart9 下から2行目 | ● <u>漢方</u> の道を切り開いた先達の出現 | ● <u>漢方復興</u> の道を切り開いた先達の出現 | | 23/08/04 |

| 2章-1 証の概念 | | | | | |
|--------------------|--------------------------------|--|---|--------------------|----------|
| 28 | Chart12 下から5行目 | (葛根湯証など) | (葛根湯証、 <u>大建中湯証</u> など) | | 23/08/04 |
| 29 | 「1証の定義」下から4行目 | 例えば「葛根湯証」などのように表され、 | 例えば「葛根湯証」「 <u>大建中湯証</u> 」などのように表され、 | | 23/08/04 |
| 30 | Chart13 西洋医学の他覚所見の欄 | 他覚所見 (<u>病変部・検査異常</u>) | 他覚所見 (<u>身体所見・検査所見</u>) | | 23/08/04 |
| 30 | 本文 1行目 | 西洋医学では、まず <u>病変部や検査異常</u> に着目して診断病名をつけ、 | 西洋医学では、まず <u>身体所見や検査所見</u> に着目して診断病名をつけ、 | | 23/08/04 |
| 2章-2-2 陰陽と虚実・寒熱・表裏 | | | | | |
| 40 | Chart19 表裏の概念と部位「表」の欄 | 身体表層部 皮膚、皮下組織、表位筋肉、 <u>四肢</u> 、頭部、鼻、関節など | 身体表層部 皮膚、皮下組織、表位筋肉、頭部、鼻、関節など | 「四肢」を削除 | 23/08/04 |
| 40 | Chart19 表証、半表半裏証、裏証が示す症候「表証」の欄 | 悪寒・発熱、頭痛、咽頭痛、鼻汁、鼻閉、項背部のこわばりと痛み、 <u>四肢の関節痛</u> や筋肉痛など | 悪寒・発熱、頭痛、咽頭痛、鼻汁、鼻閉、項背部のこわばりと痛み、 <u>関節痛</u> や筋肉痛など | 「四肢の」を削除 | 23/08/04 |
| 41 | 「4-1」表裏の意味」2行目 | 皮膚、皮下組織、表位筋肉、 <u>四肢</u> 、頭部、鼻、関節などがこれに属します。 | 皮膚、皮下組織、表位筋肉、頭部、鼻、関節などがこれに属します。 | 「四肢」を削除 | 23/08/04 |
| 41 | 「4-2」表証、半表半裏証、裏証が示す症候」2行目 | <u>四肢の関節痛</u> や筋肉痛など、「表」に局限した | <u>関節痛</u> や筋肉痛など、「表」に局限した | 「四肢の」を削除 | 23/08/04 |
| 2章-2-4 気血水 | | | | | |
| 46 | Chart22 キャプション | 「症例で学ぶ和漢診療学 第3版」(寺澤捷年/著), p5, 医学書院, 2011 | 「症例から学ぶ和漢診療学 第3版」(寺澤捷年/著), p5, 医学書院, 2011 | | 23/08/04 |
| 46 | Chart23 気滞の代表的処方欄 | ●半夏厚朴湯 ●香蘇散 | ●半夏厚朴湯 ●香蘇散 ● <u>桂枝加芍薬湯</u> けいしかしゃくやくとう | 「桂枝加芍薬湯」とそのルビを追加 | 23/08/04 |
| 46 | Chart23 気逆の代表的処方欄 | ●桂枝(桂皮)を含む処方: 桂枝湯など ●黄連を含む処方: 三黄瀉心湯など | ●桂枝(桂皮)を含む処方: 桂枝湯など ● <u>竜骨や牡蛎を含む処方: 柴胡加竜骨牡蛎湯</u> さいこかりゆうこつぼれいとう ●黄連を含む処方: 三黄瀉心湯など | 「竜骨や牡蛎を含む処方」の項目を追加 | 23/08/04 |
| 48 | Chart24 表全体 | | 血虚と瘀血の行を入れ替える | | 23/08/04 |
| 48 | Chart24 貧血症状の欄 | 貧血症状(立ちくらみ等), 顔色不良, 栄養状態不良, 皮膚乾燥, 脱毛, 色素沈着, 爪の変形, 筋痙攣, 易疲労, 疲労倦怠(臨床では血虚は気虚と伴うことが多い) | 貧血症状(立ちくらみ等), 顔色不良, 栄養状態不良, 皮膚乾燥, 脱毛, 色素沈着, 爪の変形, 筋痙攣, 易疲労, 疲労倦怠, <u>集中力低下</u> (臨床では血虚は気虚を伴うことが多い) | 「集中力低下」を追加 | 23/08/04 |
| 48 | Chart24 瘀血の代表的処方例の欄 | ●実証: 桃核承気湯 | ●実証: 桃核承気湯, <u>大黃牡丹皮湯</u> <u>だいうぼたんぴとう</u> | 「大黃牡丹皮湯」とそのルビを追加 | 23/08/04 |
| 48 | Advanced 表の右の欄 3行目 | 季肋部圧痛・抵抗 | 季肋部圧痛・抵抗 | | 23/08/04 |
| 48 | Advanced 表のキャプション | | ※寺澤は他にも血虚、気虚、気逆、 <u>気鬱(気滞)</u> 、 <u>水滞</u> についてもスコアを作成している ⁴⁾ 。 | キャプションを追加 | 23/08/04 |
| 49 | 「3 血の失調で現れる症状とその治療」1~2行目 | 「血」の失調には、 <u>血が量的に不足する「血虚」と、血の流れが滞る「瘀血」</u> の2つの病態があります。しかし、臨床では <u>血虚と瘀血</u> は明確に区別できないこともあります。 | 「血」の失調には、 <u>血の流れが滞る「瘀血」と、血が量的に不足する「血虚」</u> の2つの病態があります。しかし、臨床では <u>瘀血と血虚</u> は明確に区別できないこともあります。 | | 23/08/04 |
| 49 | 文献 | | <u>4)「症例から学ぶ和漢診療学 第3版」(寺澤捷年/著), 医学書院, 2011</u> | 文献4を追加 | 23/08/04 |

| 2章-3-2 望診 | | | | |
|---------------------------|---|--|--|-----------------------------------|
| 56 | Chart31 舌質 形態の欄 | 腫大・歯痕:水滞 気虚 | 腫大・歯痕:水滞 気虚 | 23/08/04 |
| 56 | Chart32 右下 | ①腫大舌 かつ 歯痕舌 | ①腫大舌 かつ 歯痕舌 | 23/08/04 |
| 57 | 「2)-b)形態」3~4 行目 | Chart 32 ①は腫大して、舌縁に歯形が ついています(歯痕舌)。腫大や歯痕が ある場合、水滞や気虚を考えます。 | Chart 32 ①は腫大して、舌縁に歯形が ついています(歯痕舌)。腫大や歯痕が ある場合、水滞や気虚を考えます。 | 23/08/04 |
| 2章-3-4 問診 | | | | |
| 61 | Chart36 問診で聴 取すべきこと 表の4行目右の欄 | 回数(1日7回より多いか少ないか)、 量、頻尿の時間帯 | 回数(1日7回より多いか少ないか)、 量、頻尿の時間帯、 夜間尿の有無・回数 | 「夜間尿の有無・回 数」を追加 23/08/04 |
| 2章-3-5 切診 | | | | |
| 68 | Chart40 左下青い枠の中 | ⑥腹直筋の緊張 | ⑥腹直筋の緊張(腹直筋攣急、ふくちよ くきんれんきゅう) | 「(腹直筋攣急)」と そのルビを追加 23/08/04 |
| 69 | 「3-1)腹診の行い 方」13行目 | ⑤心下振水音 → ⑥腹直筋緊張 → | ⑤心下振水音 → ⑥腹直筋緊張(腹直 筋攣急、ふくちよくきんれんきゅう) → | 「(腹直筋攣急)」と そのルビを追加 23/08/04 |
| 70 | Chart42左上 | ③心下痞硬 | ③心下痞硬 | 23/08/04 |
| 70 | Chart42右上 | ④腹直筋緊張 | ④腹直筋緊張(腹直筋攣急、ふくちよく きんれんきゅう) | 「(腹直筋攣急)」と そのルビを追加 23/08/04 |
| 71 | 17行目 | ⑥腹直筋緊張(Chart42④) | ⑥腹直筋緊張(腹直筋攣急、ふくちよく きんれんきゅう、Chart42④) | 「(腹直筋攣急)」と そのルビを追加 23/08/04 |
| 3章-1 まず知っておくべき漢方薬の基本 | | | | |
| 76 | Chart43 漢方薬の 特徴 3行目 | 例)葛根湯⇒寒気を伴う感冒初期 | 例)葛根湯⇒悪寒を伴う感冒初期 | 23/08/04 |
| 3章-2-5 加味逍遙散 | | | | |
| 116 | Chart74 下から2 行目 | ▶数年から数十年の長期間使用すること で、山梔子が起因と考えられる腸間膜静 脈硬化症の報告がある | ▶数年から数十年の長期間使用すること で、山梔子が原因と考えられる腸間膜静 脈硬化症の報告がある | 23/08/04 |
| 117 | 「4 適応と副作用」7 行目 | 山梔子を起因とする腸間膜静脈硬化症 発症との | 山梔子が原因と考えられる腸間膜静脈 硬化症発症との | 23/08/04 |
| 3章-2-6 八味地黄丸 | | | | |
| 120 | Chart77 腎気は、 加齢などにより減 少していく 図の下の部分 | 誕生 幼少期 青年期 青年期 壮年期 老年期 | 誕生 幼少期 少年期 青年期 壮年期 老年期 | 23/08/04 |
| 3章-3 代表的な生薬の効能と知っておくべき副作用 | | | | |
| 126 | Chart82 黄芩含有 製剤の使用注意 表の下から1行目 | ●薬毒性肝炎を生じうる。服薬開始後 は定期的に採血し肝機能をチェックす る。 | ●薬毒性肝障害を生じうる。服薬開始 後は定期的に採血し肝機能をチェックす る。 | 23/08/04 |
| 127 | 「2 黄芩」8行目 | 黄芩の使用上の注意として、間質性肺 炎 ³⁾ と薬毒性肝炎 ^{4,5)} を | 黄芩の使用上の注意として、間質性肺 炎 ³⁾ と薬毒性肝障害 ^{4,5)} を | 23/08/04 |
| 127 | 「2 黄芩」10行目 | 間質性肺炎は特に、インターフェロン製 剤との併用使用、および | 間質性肺炎は特に、インターフェロン製 剤との併用、および | 23/08/04 |
| 127 | 「2 黄芩」下から4行 目 | また、薬毒性肝炎については、服薬中 に | また、薬毒性肝障害については、服薬 中に | 23/08/04 |
| 128 | Chart83 グリチルリ チン酸 4~5行目 | 検査所見:血清カリウム値低下、レニン 活性低値。 | 検査所見:血清カリウム値低下、血漿レ ニン活性低値。 | 23/08/04 |
| 128 | Chart83 偽アルドス テロン症の発症メ カニズム 上部の点線矢印上 | 11β-HSD ₂ (ヒドロキシステロイドデヒドロゲナーゼ 2) | 11β-HSD ₂ (ヒドロキシステロイドデヒドロゲナーゼ 2) | 23/08/04 |
| 129 | 「3-1)グリチルリチ ン酸」14行目 | 検査所見では、血清カリウム値低下、レ ニン活性低値などがみられます。 | 検査所見では、血清カリウム値低下、血 漿レニン活性低値などがみられます。 | 23/08/04 |

| | | | | | |
|--------|-------------------------------|--|--|----------------|----------|
| 129 | 「3-2) 偽アルドステロン症の発症メカニズム」3~5行目 | 一方、副腎皮質ホルモンのコルチゾールは生体内で通常、11β-HSD ₂ (ヒドロキシステロイドデヒドロゲナーゼ2)によりコルチゾンに変換(不活性化)されます。グリチルレチン酸はこの11β-HSD ₂ を阻害することから、 | 一方、副腎皮質ホルモンのコルチゾールは生体内で通常、11β-HSD ₂ (ヒドロキシステロイドデヒドロゲナーゼ2)によりコルチゾンに変換(不活性化)されます。グリチルレチン酸はこの11β-HSD ₂ を阻害することから、 | | 23/08/04 |
| 137 | 文献 | 1) 漢方と健康保険に関するアンケートのまとめ. 日東医誌, 38: 19-217, 1988 | 1) 漢方と健康保険に関するアンケート回答のまとめ(第2回). 日東医誌, 38: 191-217, 1988 | | 23/08/04 |
| 4章-症例1 | | | | | |
| 140 | 「漢方的所見」4行目 | ▶舌診: 舌質は色調淡白, 腫大, 歯痕あり | ▶舌診: 舌質は色調淡白, 腫大, 歯痕あり | | 23/08/04 |
| 141 | 「2 漢方医学的考察」3行目 | 舌診では, 腫大舌・歯痕を認めることから、 | 舌診では, 腫大舌・歯痕を認めることから、 | | 23/08/04 |
| 141 | 「3 経過」1行目 | そこで, 六君子湯を | そこで, 六君子湯エキス顆粒を | | 23/08/04 |
| 4章-症例2 | | | | | |
| 142 | 「身体所見」6行目 | ●腹部: 皮疹なし. 腸蠕動不穏. | ●腹部: 皮疹なし. 臍上部および右下腹部に手術痕あり. 腸蠕動不穏. | | 23/08/04 |
| 142 | 「漢方的所見」4行目 | ▶舌診: 舌質は色調淡白, 腫大なし, 歯痕なし | ▶舌診: 舌質は色調淡白, 腫大なし, 歯痕なし | | 23/08/04 |
| 141 | 「3 経過」1行目 | そこで, 大建中湯を | そこで, 大建中湯エキス顆粒を | | 23/08/04 |
| 4章-症例3 | | | | | |
| 144 | 「検査所見」1行目 | ●血液検査: Hb 9.6 g/dL, MCV 76, MCHC 27 と小球性低色素性貧血を認める. | ●血液検査: Hb 9.6 g/dL, MCV 76 μL, MCHC 27% と小球性低色素性貧血を認める. | MCVとMCHCの単位を追加 | 23/08/04 |
| 144 | 「漢方的所見」4行目 | ▶舌診: 舌質は菲薄, 色調やや暗赤, 腫大なし, 歯痕なし. | ▶舌診: 舌質は菲薄, 色調やや暗赤, 腫大なし, 歯痕なし. | | 23/08/04 |
| 145 | 「3 経過」1行目 | そこで, 加味逍遙散を | そこで, 加味逍遙散エキス顆粒を | | 23/08/04 |
| 4章-症例4 | | | | | |
| 146 | 「漢方的所見」3行目 | ▶舌診: 舌質は色調淡紅, 舌尖紅, 腫大なし. 歯痕なし, | ▶舌診: 舌質は色調淡紅, 舌尖紅, 腫大なし. 歯痕なし, | | 23/08/04 |
| 148 | 「漢方的所見」4行目 | ▶舌診: 舌診は色調紅, 腫大軽度, 歯痕あり. | ▶舌診: 舌診は色調紅, 腫大軽度, 歯痕あり. | | 23/08/04 |
| 148 | 「4 漢方医学的考察(母親)」4行目 | 舌診では, 色調紅は気逆, 腫大, 歯痕, 厚い白苔は水滯(痰たん飲いん)で | 舌診では, 色調紅は気逆, 腫大, 歯痕, 厚い白苔は水滯(痰たん飲いん)で | | 23/08/04 |
| 148 | 「5 経過」1行目 | そこで, 女兒に抑肝散を1日2回成人常用量の3分の1で, 母親に抑肝散加陳皮半夏1日2回常用量で | そこで, 女兒に抑肝散エキス顆粒を1日2回成人常用量の3分の1で, 母親に抑肝散加陳皮半夏エキス顆粒1日2回常用量で | | 23/08/04 |
| 149 | 「6 抑肝散について」6行目 | ▶柴胡加竜骨牡蛎湯: 虚実中間~実証で, | ▶柴胡加竜骨牡蛎湯: 体力中等度以上で, | | 23/08/04 |
| 4章-症例5 | | | | | |
| 150 | 「漢方的所見」3行目 | ▶舌診: 舌質は色調淡白, 腫大なし, 歯痕なし. | ▶舌診: 舌質は色調淡白, 腫大なし, 歯痕なし. | | 23/08/04 |
| 151 | 「3 経過」1行目 | そこで, 八味地黄丸を | そこで, 八味地黄丸エキス顆粒を | | 23/08/04 |
| 151 | 「4 八味地黄丸について」8行目 | ▶当帰四逆加呉茱萸生姜湯: 虚証(体力中等度以下)で, | ▶当帰四逆加呉茱萸生姜湯: 体力中等度以下で, | | 23/08/04 |
| 151 | 「4 八味地黄丸について」10行目 | ▶苓姜朮甘湯: 虚証(体力中等度以下)で, 胃腸が弱く, 口渴がなく, 腰が水につかっているような冷えがあり, 頻尿を訴える場合に用います. | ▶苓姜朮甘湯: 体力中等度以下で, 腰下肢の冷えが顕著で痛みを伴い, 頻尿を訴える場合に用います. | | 23/08/04 |
| 4章-症例6 | | | | | |
| 152 | 「検査所見」1行目 | ●血液検査: WBC 11,000/μL, 他の血球は異常なし. | ●血液検査: WBC 11,000/μL, 他の血球は異常なし. | | 23/08/04 |
| 152 | 「漢方的所見」3行目 | ▶舌診: 舌質は色調淡紅, 腫大なし, 歯痕なし. | ▶舌診: 舌質は色調淡紅, 腫大なし, 歯痕なし. | | 23/08/04 |
| 153 | 「3 経過」1行目 | そこで, その場で葛根湯1回分を | そこで, その場で葛根湯エキス顆粒1回分を | | 23/08/04 |

| | | | | | |
|------------------|-------------------------------------|---|---|----------------------|----------|
| 153 | 「4 葛根湯について」7～10行目 | ▶小青龙湯:太陽病期の虚寒中期証で、喘鳴、咳嗽、呼吸困難、鼻症状などを訴える場合に用います。アレルギー性鼻炎で頻用されます。 ▶麻黄附子細辛湯:少陰病虚証で、手足に冷えがあり、悪寒を伴う微熱がある場合に用います。気管支炎、気管支喘息にも用いられます | ▶麻黄附子細辛湯:少陰病虚証で、手足に冷えがあり、悪寒を伴う微熱がある場合に用います。気管支炎、気管支喘息にも用いられます ▶小青龙湯:太陽病期の虚寒中期証で、喘鳴、咳嗽、呼吸困難、鼻症状などを訴える場合に用います。アレルギー性鼻炎で頻用されます。 | 小青龙湯と麻黄附子細辛湯の順番の入れ替え | 23/08/04 |
| 5章-2 鍼灸の種類とメカニズム | | | | | |
| 162 | Chart94 左から3つ目の枠の中 | 求心神経線維(C, A δ , A β 線維)や自律神経を介して局所(軸索反射)・脊髄・脳に伝達 | 求心神経線維(C, A δ , A β 線維)や自律神経を介して局所(軸索反射)・ 内臓 ・脊髄・脳に伝達 | 「内臓」を追加 | 23/08/04 |
| 163 | 「2-1)鍼灸の理論」8行目 | 自律神経を介して局所・脊髄・脳に伝達し、 | 自律神経を介して局所・ 内臓 ・脊髄・脳に伝達し、 | 「内臓」を追加 | 23/08/04 |
| 5章-3 適応と有害事象 | | | | | |
| 168 | Chart99 鍼灸の作用と副作用 右の上から2つ目の青い枠の中 | 反応 ● 刺入時疼痛(得気) ● 末梢に血流がよくなることによるだるさ ● 筋肉の弛緩による倦怠感・眠気 | 反応 ● 刺入時疼痛 ● 末梢に血流がよくなることによるだるさ ● 筋肉の弛緩による倦怠感・眠気 | 「(得気)」を削除 | 23/08/04 |
| 168 | Chart99 鍼の反応と有害事象 表の1段目 | 鍼反応 ● 刺入時疼痛(得気) ● 眠気 ● 筋弛緩によるだるさ | 鍼反応 ● 刺入時疼痛 ● 眠気 ● 筋弛緩によるだるさ | 「(得気)」を削除 | 23/08/04 |
| 168 | Chart99 鍼の反応と有害事象 表の2段目 | 副作用 ● 治療中の症状悪化(疼痛増強) ● 自律神経反応(失神・嘔気・嘔吐・下痢・めまい) ● 筋力低下 ● 血管拡張による痒み・発汗・頭痛 | 副作用 ● 治療中の症状悪化(疼痛増強) ● 自律神経反応(失神・嘔気・嘔吐・下痢・めまい・ 脳貧血・血圧低下) ● 筋力低下 ● 血管拡張による痒み・発汗・頭痛 | 「脳貧血・血圧低下」を追加 | 23/08/04 |
| 169 | 「2-2)鍼灸治療の有害事象」3行目 | 失神・嘔気・嘔吐・下痢・めまいなどの自律神経反応、 | 失神・嘔気・嘔吐・下痢・めまい・ 脳貧血・血圧低下 などの自律神経反応、 | 「脳貧血・血圧低下」を追加 | 23/08/04 |
| 課題 | | | | | |
| 178 | 解答C 2行目 | 軽度 腫 大、歯痕あり、白苔を中等量認める。 | 軽度 腫 大、歯痕あり、白苔を中等量認める。 | | 23/08/04 |